

# 星景写真コンテスト入賞作品目録



一席

「星光の蓮華」

村川 節秀さん

(鳥取県)

午前3時前、夏の天の川が高く昇っています。地上を見ると、手前には一面に蓮華の花。ピンク色に染まっています。奥のほうには明かりが見えます。これは街灯の明かりでしょうか。この時間、まだ人の動きはありません。これから少しずつ空が明るくなり、街灯の明かりが消え、人々の生活が始まります。低空の雲の流れがいいアクセントとなり、静かな時間の流れが感じられます。

※掲載した作品は、印刷時に作品本来の質が損なわれております。ご了承ください。  
※入賞作品は、さじアストロパーク公式ホームページにも掲載しています。

## 第32回さじアストロパーク星景写真コンテスト

- ☆主 催☆ さじアストロパーク
- ☆協 力☆ 写友会カプリシヤス、鳥取県写真家連盟東部支部、鳥取天文協会
- ☆協 賛☆ 三鷹光器(株)
- ☆後 援☆ (合)さじ振興、(株)さじ式拾壺
- ☆応募結果☆ 98点(51名)
- ☆審 査☆ 委員長/佐治天文台名誉台長・香西洋樹  
委員/さじアストロパーク所長、ほか

審査委員長 香西洋樹(佐治天文台名誉台長)

2025(令和7)年も猛暑が続いたり豪雨があったりと異常気象が続きました。秋が短かったのもその1つでしょうか。2026年は何事もなければ、と願うばかりです。

それでも、夜空には星々が輝き、下界の騒動を見つめていました。星取県を自称する鳥取県の佐治天文台32回目のコンテストです。その結果は、北海道から九州地方まで各地の51人により98点の作品が寄せられました。前回の反省をふまえ、グーグルフォームを使ってweb募集を行いました。前回に比べると、多くの方からご応募いただきました。応募頂いた方々の年齢は、20歳代の方から70歳以上の高齢の方までに亘り、特に中年の方、50歳代と60歳代の方々の応募数が半数に達し、更に高齢の方の応募がみられました。何かと多忙な中年の方々が寸暇を見つけて家族共々に親しむ夜空の星々。今後の活躍が期待されそうです。また高齢者の楽しみ方の一つが星空、言い換えると人と宇宙についての関心が広がり、そして深まったことを示しているのではないかと考えています。今回、応募された作品を拝見するとき、作者自身の自然観、さらに人生観などを感じさせられ、そして地元やその他の土地に対する慈しみの思い、若年の人は新鮮な眼差しで驚きを、中年の方には勢いを感じ、高齢者は成熟した瞳で見つめ、人と宇宙の関わりを表現しました。また、撮影の場所についても、撮影のための遠征に加え自宅付近、さらに故郷の星空を改めて見上げる姿勢が見られることは大変好ましいことと感じます。評者は、以前から居住地の、言い換えると生活の拠点の星空を大切にしたいと語り続けてきました。すなわち、都会には都会の、また、田園地帯には豊富な自然の星空があります。つまり、星空は撮影地の環境を示す指標なのです。入選作品については個々に選評を書きますが、全応募作品が作者自身で納得し、厳選された上での応募であることは言うまでもないこと、その事実は作品を審査する過程において如実に感じました。

しかし、あくまでも自然が対象です。応募作品を拝見し、回を重ねるごとに完成度の高い作品が多くなってきたことを強く感じ、さらにこれまでの応募者に加えて、初応募の方や女性の愛好者が増加したことも大きな喜びでした。写真が手軽に撮影でき身近になってきた一方で、天体を含む自然に対して関心が低下してきていると危惧する声も聞かれます。しかし、天文学上の新しい発見や業績が発表されると、世間は一気に沸騰します。星空と我々人間の関係は、永遠に変わることのない伴侶であります。何時までも皆様と共有していきたいものです。特に最近頻発する自然災害。これも地球誕生以来繰り返されてきた自然現象で、早い復興を心から願い、その被災地の上にも太古からの変わらぬ星空があることを心に留めて置くことも大切なのではないのでしょうか。最後に、このコンテストを催すにあたり、多くの方々にご協賛・ご後援をいただきました。主催者として、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

## 二席「夢にまで見た景色」

栗田 雅嗣さん(栃木県)

ニュージーランドの南島にあるテカポで撮影された1枚です。ここには有名な建物「善き羊飼いの教会」があります。ここは昼間も、そして夜も絶好の撮影スポットとなっています。夜は敷地内に入れず、ということで、少し離れた場所からの撮影です。日本では見ることのできない大・小マゼラン銀河が写っています。多くの人が1度は見てみたい星空、まさに夢にまで見た景色といえるのではないのでしょうか。



三席 「霧中の星座」  
今井 多佳子さん(埼玉県)



濃い霧の中で、霧が晴れるのを待っていたら、たまたま友人がカメラの前にいた、とのこと。撮影の準備をされているのでしょうか。道の先には冬の大三角と木星、すばらしいシャッターチャンスをものにしました。ソフトフィルターの効果で星空も少し霧がかかったように見えます。とても幻想的な1枚です。

三席 「銀河に照らされる黄金の樹」  
藤岡 智弘さん(鳥取県)

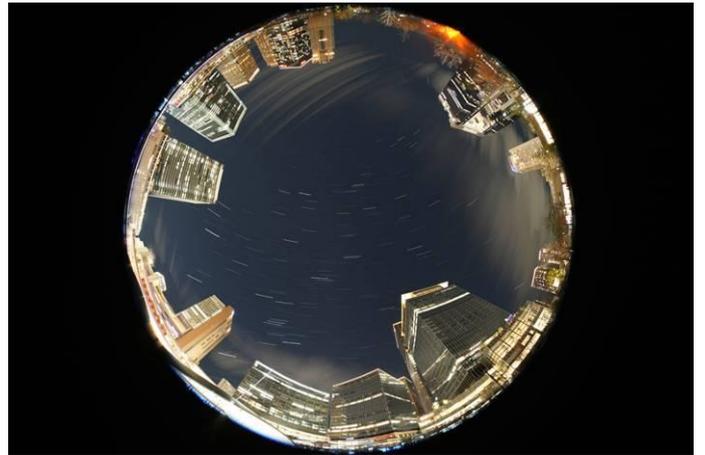


鳥取県日南町旧日野上小学校にある大イチョウと天の川を1枚に収めました。樹齢100年を超え、町のシンボルツリーとなっています。この大イチョウが明かりに照らされ浮かび上がり、校庭には大イチョウから落ちた黄色い葉が敷きつめられています。季節は秋ですが、空を見るとまだ夏の天の川を見ることができます。季節感到少し矛盾を感じながらも、ふと100年前の景色に思いをはせさせてくれる作品となりました。

特別賞



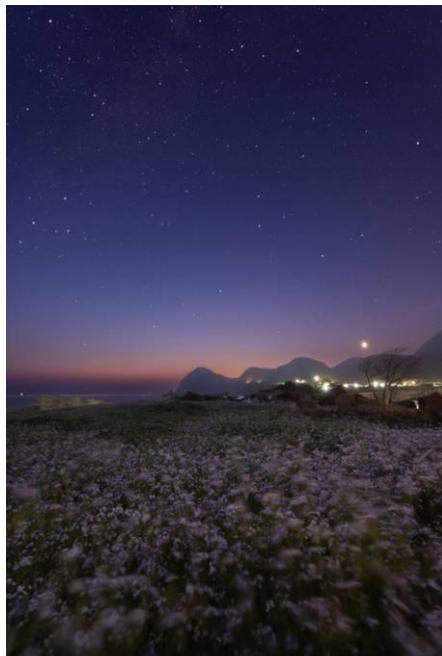
「紫金山・アトラス彗星と地球照のある月」  
佐藤 崇さん(宮城県)



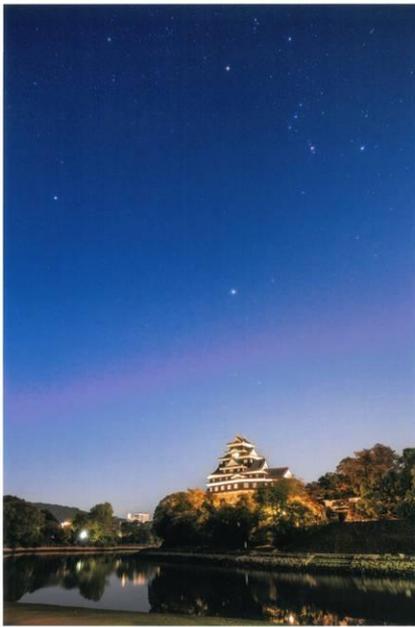
「都心の天窓から」  
川崎 忠昭さん(兵庫県)



「3321秒、それぞれの軌跡」  
荒谷 拓実さん(宮城県)



「薄明を翔ける天馬」  
村嶋 陽一さん(和歌山県)



「麦畑のCOSMOS」

横山 明日香さん (北海道)

「星座の瞬きはタイムカプセル」

西田 智哉さん  
(岡山県)



「プロキオンからシリウスまで」  
齋藤 正敏さん (新潟県)

佳作



「月影」

安田 幸弘さん (埼玉県)



「スノーモンスターの森」

石川 了輔さん (群馬県)



「早春賦 ～月明かりに染められて～」

渡邊 守さん (千葉県)



「光の競演」

小野 扶未さん (神奈川県)

星取県賞



「伯耆大山にかかる天の川」

押木 俊之さん (岡山県)



「星巡る春宵」

山本 美佐子さん (鳥取県)

さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1 TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103

<https://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1425466200201/> e-mail : sj-astro@city.tottori.lg.jp